

被災した住宅、家財等の損失額の計算書

ア

住所 静岡県静岡市〇〇 氏名 見本

損害年月日	4.9.23	損害の原因	台風15号に打浸水	
住宅・家財等の損失額の計算				
住宅の種類	住宅・その他 ()	住宅・その他 ()		
住宅の区分	平屋・二階建・その他 ()	平屋・二階建・その他 ()		
住宅の構造	木造・鉄骨鉄筋コンクリート・鉄筋コンクリート 鉄骨造・その他 ()	木造・鉄骨鉄筋コンクリート・鉄筋コンクリート 鉄骨造・その他 ()		
住宅の取得年月	令和2年7月	年月		
住宅の床面積	121 m ²	m ²		
被害の区分	全壊・流失・埋没・倒壊・半壊 ・一部破損・床上浸水 40 cm・床下	全壊・流失・埋没・倒壊・半壊 ・一部破損・床上浸水 cm・床下		
浸水時間	24時間以上・24時間未満	24時間以上・24時間未満		
上砂(海水)の流入	有・無	有・無		
1 住宅の損失額	(1) 取得価額等が明らかな場合 住宅の取得価額	①	不明	円
	(2) (1) 以外の場合 1m ² 当たりの工事費用×総床面積	②	180千円/m ² × 121 m ² = 21,780,000	円
	(①・②) × 0.9 × 償却率 (0.031) × 経過年数 (2年)	③	1,215,324	円
	被災直前の時価相当額 ((①・②) - ③)	④	20,564,676	円
	損害額 (④ × 被害割合 (55%))	⑤	11,310,572	円
	保険金などで補てんされる金額	⑥	3,000,000	円
	差引損失額 (⑤ - ⑥)	⑦	8,310,572	円
2 家財の損失額	(1) 取得価額等が明らかな場合 家財の時価の合計額 (別紙から転記)	⑧	不明	円
	(2) 家族構成別家財評価額 (世帯主の年齢 45歳 : 夫婦・独身)	⑨	11,000,000	円
	(1)以外の 場合	⑩	大人 1,300,000円 × 2人 = 2,600,000 子供 800,000円 × 2人 = 1,600,000 計 4,200,000	円
	被災直前の時価相当額 (⑨ + ⑩)	⑪	15,200,000	円
	損害額 ((⑧・⑪) × 被害割合 (90%))	⑫	13,680,000	円
	保険金などで補てんされる金額	⑬	1,000,000	円
差引損失額 (⑫ - ⑬)	⑭	12,680,000	円	
3 車両の損失額	普通・軽の区分		普通・軽	普通・軽
	取得年月		年月	年月
	車両の取得価額	⑮	円	円
	⑮ × 0.9 × 償却率 × 経過年数 () ()年	⑯		
	被災直前の時価相当額 (⑮ - ⑯)	⑰		
	損害額 (⑰ × 被害割合 ())	⑱		
	保険金などで補てんされる金額	⑲		
差引損失額 (⑱ - ⑲)	⑳			
差引損失額の合計 (⑦ + ⑭ + ㉑)	㉑			

被害割合表より
取2は被害区分

50% + 35%

50% + 40%

①

雑損失の金額の計算書

(平成 4 年分)

氏名 見本

この計算書は、災害により住宅や家財などに被害を受け、雑損失の金額のうちに災害関連支出がある場合に使用します。
 なお、損失額の合理的な計算方法により損失額を計算する場合には、「被災した住宅、家財等の損失額の計算書」を併せて使用します。

1 損害の原因等

損害の原因	台風15号による浸水	損害年月日	4.9.23
-------	------------	-------	--------

→申告書第二表「雑損扣除」の「損害の原因」欄及び「損害年月日」欄にそれぞれ転記します。

2 災害関連支出の内訳

区分	支払先の名称・所在地等	工事内容	支払年月日	支払金額	支払金額の内訳			A 原状回復のための支出額 ($H \times 30\% + I$)
					I 原状回復のための支出金額	H 資金的支出の金額	H・Iとロの区分が困難な金額	
原状回復のための支出			. . .	円	円	円	円	円
			. . .					
			. . .					
			. . .					
			. . .					
			. . .					
			. . .					
合 計								

区分	支払先の名称・所在地等	工事内容	支払年月日	B 支払金額	【備考】
取壊し、除去等の費用			. . .		
			. . .		
			. . .		
			. . .		
			. . .		
			. . .		
			. . .		
合 計					

ウ

3 損失額の計算

区 分	住 宅	家 財	車 両			C 合 計
損 害 金 額	円	円	円	円	円	円
① <small>「被災した住宅、家財等の損失額」の計算を参照し、③、④、⑤の金額をそれぞれ「住宅」、「家財」又は「車両」の欄に入記します。</small>	17,479,974	11,340,000				28,819,974
② 原状回復のための支出額 (2のA欄の各区分ごとの金額)	0	0				0
③と②のいずれか大きい方の金額	17,479,974	11,340,000				28,819,974
③から差し引く保険金等で補てんされる金額 (③の金額を超える場合は③の金額)	3,000,000	1,000,000				4,000,000
③ - ④	14,479,974	10,340,000				24,819,974
⑥ 原状回復に係る災害関連支出の金額(②-①) (赤字のときは0、⑤の金額を限度)	0	0				0
⑦ 取壊し、除去等の額の合計額 (2のB欄の各区分ごとの金額)	0	0				0
⑦から差し引く保険金等で補てんされる金額 (⑦の金額を超える場合は⑦の金額)	0	0				0
⑦ - ⑧	0	0				0
⑩ 災害関連支出の金額(⑥+⑨)	0	0				0
⑪ 損失額の計(①+⑩)	17,479,974	11,340,000				28,819,974

4 雑損失の金額(雑損控除額)の計算

	損害金額等の全体	円
⑫ 損害金額((③のC)+(⑦のC))	28,819,974	
⑬ 保険金などで補てんされる金額 (④のC)+(⑤のC)	4,000,000	
⑭ 差引損失額(⑫-⑬)	24,819,974	
⑮ 所得金額	5,000,000	
⑯ ⑮ × 0.1	500,000	
⑰ ⑭ - ⑯ (赤字のときは0)	24,319,974	
⑱ 差引損失額のうち災害関連支出の金額(⑩)	0	
⑲ ⑱ - 50,000円 (赤字のときは0)	0	
⑳ 雑損失の金額 (⑰と⑲のいずれか多い方の金額)	24,319,974	
㉑ 雑損控除額 (⑱と⑲のいずれか少ない方の金額)	5,000,000	
㉒ 翌年以後に繰り越す雑損失の金額 (㉑ - ⑲)	19,319,974	

→⑫の金額を申告書第二表「雑損控除」の「損害金額」欄に入記します。

→⑬の金額を申告書第二表「雑損控除」の「保険金などで補てんされる金額」欄に入記します。

←この計算書の「書き方」をご覧ください。

確定申告書 第一表から書き写す
24,319,974円

→申告書第二表「雑損控除」の「差引損失額のうち災害関連支出の金額」欄に入記します。

→申告書第一表「雑損控除」欄に入記します。

→⑱に分離課税の土地建物等の譲渡所得の金額が含まれている場合には、この計算書の「書き方」をご覧ください。